

国際シンポジウム 「認知症のグローバル化：課題と対応」

2005年のロンドン大学の調査によると、全世界で認知症患者は2,430万人から2040年には8,110万人になると予測されている。先進国では倍増、中国やインド、その周辺諸国では4倍の増加となることが報告されている。

「認知症」は世界的規模で議論する最重要課題の一つであるとして、2010年10月26日、ILCグローバル・アライアンスは、南アフリカのケープタウンにおいて国際シンポジウムを開催した。南アフリカの政府、医療、福祉関係者、報道機関などが多数参加した。

グロス博士は、今世紀の半ばまでに世界の高齢者は20億人を超える見通しを示しながら、認知症がもたらす社会的・経済的な課題は世界の最も重要な課題になるだろうと指摘した。そして国家単位のまた世界規模の認知症戦略が必要とされており、高齢化率の最も高い日本が今後も重要な役割を果たしていくことに期待を表明した。

また、グリーングロスILC英国理事長とフォレットILCフランス理事長はそれぞれ、イギリスとフランスにおける「認知症の人と介護者のQOLの向上」「研究の充実」「認知症の問題をヨーロッパにおける最優先課題とすること」などを内容とする認知症に関する国家戦略の内容(詳細はp.15~16)を説明し、今後さらに取り組みを充実させていくと発言した。

国際シンポジウム

「認知症のグローバル化：課題と対応」

第1部：課題と問題提起

発表① 今後の人口学的課題と 認知症マネジメント向上の緊急性

ハンス・グロス

スイスファイザー株式会社CEO

World Demographic and Ageing Forum 理事

発表② 認知症の課題、 イギリスにおける政策と実践

サリー・グリーングロス

ILC英国理事長

パネリストによる発言：ILCアルゼンチン、ILCインド

第2部：対応と実践

発表③ フランスのアルツハイマープランは 事態に対応できるか？

フランソワーズ・フォレット

ILCフランス理事長

発表④ 南アフリカに見る 発展途上国の認知症への対応

セバスチアナ・カルラ

ILC南アフリカ副理事長

パネリストによる発言：ILCイスラエル、ILC日本、ILCオランダ

発表⑤ メアリーアン・ツァオ

ILCシンガポール理事長



サリー・グリーングロス ILC 英国理事長

カルラILC南アフリカ副理事長は、南アフリカの高齢女性は、社会的、経済的、政治的分野の多くで差別されている上に、深刻な感染症(特にHIV /エイズ)の蔓延や、医療へのアクセスの悪さに直面していることを報告した。

発表者以外のパネリストも主にそれぞれの自国の状況を紹介した。日本からは「認知症を知り地域をつくる10カ年」「認知症でもだいじょうぶ町づくりキャンペーン」の経験を説明し、国民的キャンペーンを行って地域で認知症の人を支える環境づくりを推進することの重要性を強調した。世界をリードする長期介護政策である公的介護保険制度を確立していることとあわせて、各国からの高い評価を得た。

最後に、大迫ILCグローバル・アライアンス事務局長より「認知症のグローバル化への対応に関するケープタウン宣言」が提案され、参加者全員の賛同を得た。

なお、本シンポジウムの詳細は、IFA（国際高齢者連盟）の機関誌『グローバル・エイジング』の特集号(2011年6月刊行予定)に収録される予定である。

ILCグローバル・アライアンス 認知症のグローバル化への対応に関する ケープタウン宣言 (抄)

ILCグローバル・アライアンスは、認知症の人と家族そして介護者の権利を守るために、各国、市民社会、学界、コミュニティ、各個人に対して以下の行動を呼びかける。

1. 予防、診断、治療の標準フレームワークを確立するための学際的討議を行うこと
2. 認知症に関する各国及び国家の枠を超えた総合政策の推進、実施をすること
3. 認知症の全局面と介護についての各国政府あるいは民間の研究費増額を応援すること
4. 認知症について教育を受けたヘルスケア専門家を増やすこと
5. 認知症予防をめざす教育活動を発展させること
6. 認知症ケアモデルを確立すること
7. 社会団体が行う認知症の人とその介護者のための提言やサービス提供を支援すること
8. 認知症の人のインフォーマル介護者を支援すること
9. 認知症高齢者を含む高齢者の権利擁護のための国連会議を支持すること



大迫政子 ILC グローバル・アライアンス事務局長